

年	組	名前
---	---	----

シェアオフィスが大分、別府両市に相次いで開設されています。

①シェアオフィスとは、どのようなオフィスでしょう。通常のオフィスと違うところはどのような点でしょう。

.....

.....

.....

.....

②シェアオフィスは安いことのほか、どんないいことがありますか。

.....

.....

.....

.....

③シェアオフィスでやってみたいことを考えてみよう。

.....

.....

.....

.....

.....

# 「シェアオフィス」続々

部屋を共用することで安価に仕事場を確保できるシェアオフィスが大分、別府両市に相次いで開設されている。創業支援が主な目的で、同じ志を持つ人や多様な業種の人たちと日常的に交流できたり、専門家のサポートを受けられるメリットもある。人口減少などで県経済を支える企業が減っている中、新しい事業者を生み出す基盤として期待を集めている。

## 低コストで仕事場共有



JR別府駅近くのシェアオフィス。専門家（左）からアドバイスを受ける創業を目指す人や創業者＝別府市田の湯町

県が指定した民間の創業支援施設は大分、別府両市に計12施設。個室型が主流の中、この1年にできた4施設のうちシェアオフィスは3施設を占め、計4施設が増えた。県も大分市東春日町に新設したおおいスタートアップセンター内に設けた。

別府市のJR別府駅近くにあるシェアオフィスは80平方メートルのスペースにフリースペース、会議室6席、応接セット、会議室などがある。会員は月1万800円（学生は半額）で自由に使い、17人が思い思いの時間帯に自身のパソコンなどで仕事をしている。近く創業予定の男子大学生18人は「資金がないので助かる。（常駐の）専門家に指導してもらったり、先輩創業者の体験談を聞けるのも大きい」と話す。

異業種交流の場としても活用される。大分市府内町の施設では毎週1回、ランチ会を開催。自営業者、会社員、公務員ら10人前後が毎回テーマを設け、情報や意見を交わす。開設したIT系ベンチャー企業インゲン（同市）の鶴岡英明社長

## 若者らの創業支援 異業種交流の場にも

（31）は「自社を含めた人脈づくりが狙い。学生には施設を無料開放し、人材発掘もしたい」とする。

6年前、大分市に県内初のシェアオフィスを設けた酒井英俊さん（55）は「ブチ誘致」にも力を入れる。県外企業に「低コストで大分にオフィスを開ける」と働き掛け、東京や福岡の企業が進出しているという。

企業の育成は県経済の活性化に不可欠。各施設は創業しやすい環境を提供し、「創業を志す人をまず増やしていきたい」と考えた。